

# 令和元年度第3回庄原市初任者研修会

令和元年8月19日（月） 帝釈峡博物展示施設 時悠館

「庄原市における教育課題を踏まえ、新規採用教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭8名、中学校教諭8名、養護教諭3名、栄養教諭1名、主事1名】

## 【講話・演習】「学習者基点の授業づくりについて」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 伊澤 知弥

単元のまとまりによる授業づくりについて、講話・演習を行った。単元の目標や目指す児童生徒の姿、そのために必要な手立てや工夫などを考え、単元デザインシートを作成した。その後、グループ別に協議を行い、助言し合った。

- ◆授業計画を作成する際は、本時のみに焦点を当てるのではなく、単元全体を通して、どのような力の育成を目指すのかを考えること。
- ◆児童生徒の主体的な学びに向けて、児童生徒の学習意欲を高める課題を工夫したり、話し合いを通して考えを深め広げられるよう発問を工夫したりすること。また、学んだことを実感できる振り返り活動を充実させること。



(参加者の振り返りより)

- ◇単元を見通した計画を作ることで、1時間ごとの授業が明確になった。また、身に付けさせたい力をはっきりさせることで、手立てをより具体的に考えることができた。
- ◇他教科の先生と協議する中で、よりよい授業づくりのヒントが見つかった。様々な視点や角度で授業づくりをしていくことの重要性を感じた。

## 【講話】「メンタルヘルス研修 ストレスとうまく付き合う

～心の健康を保つために～

臨床心理士 藤沢 真智

教職員を続けていくために、自分のストレス状況に気付き、日常的、意識的にストレスをマネジメントすることについて、講話を行った。

- ◆ストレスと心身の関係を理解し、自分のストレス反応の表れ方を知っておくこと。そして、対処法を学び、日常生活でストレスマネジメントを行うこと。
- ◆職場内外のソーシャルサポートの活用や、自分なりのお気に入りの時間をもつこと、リラクゼーション法（漸進性筋弛緩法や複式呼吸法）を実践し、セルフケアをしていくこと。



(参加者の振り返りより)

- ◇休職者の数に驚いた。自分に表れるストレス症状を確認し、早めに対応していきたい。
- ◇ストレスについて知ることは、自分の身を守ることにつながるのだと感じた。
- ◇ストレスをためすぎず、こまめに解消し、ON と OFF の切り替えやメリハリを大切にしたい。

## 【施設見学】「帝釈峡博物展示施設 時悠館」

帝釈峡博物展示施設 時悠館 学芸員 稲村 秀介

- 庄原市東城町の歴史に係る展示物やその価値について、学芸員の案内により見学を行った。
- ◆帝釈峡遺跡群（縄文時代）の発掘調査の詳細をパネルや出土遺物をもとに紹介している。
  - ◆東城小学校との連携事例から、各校でも博物館などとの連携の在り方について考えること。



（参加者の振り返りより）

- ◇子供たちには自分の住んでいる地域だけでなく、市のことももっと知ってほしいと思った。そのために、庄原市に勤務する教員として、庄原の歴史についてもっと知り、素晴らしさを伝えていきたい。
- ◇施設と小学生が協力して、見る人を楽しませたり、展示物を分かりやすくする工夫があった。

## 【講話】「児童・生徒と向き合う」

庄原市教育委員会 教育指導課長 東 直美

- 教職員に期待される役割と児童・生徒への対応について講話を行った。
- ◆求められる教職員像として、普遍的な事項と新たな「教育県ひろしま」の創造に向けて特に求められる事項がある。教諭指標等を参考にし、常に教育公務員としての自覚をもって、業務にあたる必要がある。
  - ◆学校教育法第11条に規定する児童生徒の懲戒・体罰等に関する参考事例を踏まえ、体罰に対する正しい認識に基づき、指導に当たること。



（参加者の振り返りより）

- ◇自分の都合ではなく、しっかりと教育的愛情をもって子供たちと向き合うことが大切だと改めて感じた。自分の中で大切にしたいことを子供たちに伝えていく。
- ◇体罰に当たる行為と体罰に当たらない行為について、改めて考えることができた。感情的にならないように気を付けていく。

## 【講話】「教職員としての在り方について」

庄原市教育委員会 教育部長 片山 祐子

- 教職員としての基本姿勢を大切にすることについて、講話を行った。
- ◆教育の力が、ふるさと庄原を支え動かす役割を担っている。庄原市の子供たちを育てる教育公務員であることを自覚し、全体の奉仕者として常に周りのことを考えて行動していくこと。
  - ◆教職員としての心得として、高い倫理感と人間性を身に付けることが大切である。あいさつ・身だしなみ、守秘義務、不祥事根絶など常に意識する。



（参加者の振り返りより）

- ◇あいさつや身だしなみは印象を決める上で大切なので意識していきたい。一人の行動が学校全体のイメージにつながることもあるので、意識して行動していきたい。
- ◇教職員として、児童生徒・保護者・地域の方から信頼されるよう行動する。そして事故や不祥事に気を付け、公務員である自覚を常にもち、業務を行いたい。